



山口県長門市俵山地区

住民有志でNPO法人を設立して 地域課題に取り組む

かつては湯治場として栄えた俵山地区では、人口減少や少子高齢化が進んで危機感が高まるなか、高齢化した住民が末永く安心して住み続けられる地域にしていくために地域づくりの活動母体となる「NPO法人ゆうゆうグリーン俵山」を設立。高齢者の移動手手段の確保や配食サービスなどの生活支援事業を行っています。



Step 地域運営の仕組みづくりのステップ

step.1 共有

若手世代が中心になって話し合いを開始

過疎化が進む危機感から、俵山地区の地域づくり協議会青年部(平成11年設立)が中心となり、これからどのように地域を存続させていくべきかの話し合いを始めました。

step.2 設立

NPO法人ゆうゆうグリーン俵山を設立

話し合いを進めた地域づくり協議会青年部のメンバーが中心となり、団体の立ち上げを検討。「誇りを持って住み続けたいと思える地域に」を活動コンセプトに、平成21年にNPO法人ゆうゆうグリーン俵山(以下、NPO法人俵山)を設立しました。広く住民に呼びかけて参加者を募ったところ、40代前後の若手を中心に多くの住民がこの動きに賛同し、会員になりました。令和3年3月現在の会員数は243名(団体会員6含む)で、7名の職員が勤務しています。



step.3 実践

徐々に事業を拡大

法人設立の翌年に俵山地区の地域づくり拠点となる「里山ステーション俵山」の施設管理を長門市より受託。後に地区内にある「俵山多目的交流広場」の施設管理も受託しました。その他にも生活交通支援や配食サービスなどの福祉事業や観光、教育事業を始めるなど、様々な分野で事業を拡大していきました。



step.4 発展

収益を安定化させて生活支援サービスの充実へ

今後は地区内の他の公共施設の管理受託なども検討しており、収益の安定化を図りつつ、高齢者向けの生活支援サービスの充実を図っていきたいと考えています。

これまでの地区のあゆみ

- H20 市が「里山ステーション俵山」を整備
- H21 「NPO法人ゆうゆうグリーン俵山」を設立
- H22 「里山ステーション俵山」の指定管理を受託
- H23 「配食サービス」を開始
- H25 「過疎地有償運送」を開始
「俵山多目的交流広場」の指定管理を受託

Data

人口1,110人(高齢化率52.4%) ※平成27年国勢調査



○ 地域の特徴

- ・長門市中心部から約15km、車で約20分
- ・東西に約10km、南北に約7.5kmの山間地に集落が点在



Pick up

取組 1

運転のできない高齢者などの 移動手手段を確保! 生活交通の支援



NPO法人俵山が実施主体となり平成25年に過疎地有償運送を開始しました。地区内の病院、郵便局、公民館、農協などに加え、地区外の長門市駅も目的地として、月曜から金曜日まで週5回運行。運転のできない高齢者の移動手手段となっています。このほかスクールバスも運行させて小学生の送迎を行っており、このバスもNPO法人俵山の職員が運転しています。

※国の制度改正により、現在は交通空白地有償運送として運行しています。

step.1 きっかけ

NPO法人俵山等の若手メンバーが今後の地域課題について話し合いを進めるなかで、運転のできない高齢者の移動や食事の支援が大きな課題になっていくことが浮き彫りになりました。

step.2 計画

高齢者の移動支援を検討するにあたり、まずは長門市に相談しました。その結果、市からは補助金の支援を受け、NPO法人俵山が主体となって過疎地有償運送を行うことに。運行ルートの検討や予約の仕組みづくり、ドライバーの確保などの実施計画を検討しました。

step.3 トライ

コミュニティ施設「里山ステーション俵山」に受付等を行う事務局を設置し、山口県内で初となる過疎地有償運送を平成25年から開始しました。平日の週5日、午前と午後それぞれ3便運行しており、そのうち午前の1便と午後の3便は長門市駅を発着地として送迎しています。利用者は運行を行うNPO法人俵山に事前に登録をしておき、利用の際には前日までに電話で予約をします。



【料金(乗車1回あたり)】

俵山地区内300円(小学生以下:100円)
長門市駅行700円(同:200円)

地域の声

地域で車を運転できない方の大切な移動手手段。自宅が学校から遠い子どもも多く、スクールバスもなくてはならない移動手手段です。

NPO法人ゆうゆうグリーン俵山

会員数243名(団体会員6含む) 理事12名、監事2名
会費:個人1,000円(正・賛助)、団体10,000円

実働スタッフとして里山ステーション俵山で職員を雇用

職員:フルタイム勤務1名、パートタイム勤務6名

関係・情報共有

俵山地区発展促進協議会

※住民主導の地域づくり協議会

※R3.3月現在の状況



Pick up

取組 2

高齢者の食事を地域でケア 見守りもかねた配食サービス

NPO法人俵山では、長門市の福祉事業の一つ「食の支援事業」を受託し、配食サービスを行っています。お届け先は調理や食材調達に困難な地区内の65歳以上の一人暮らしの高齢者や、高齢者のみの世帯など。食事を届けるだけでなく、高齢者の安否確認を行うことも事業の目的としています。このほか俵山幼稚園への給食提供、一般への弁当販売なども行っており、特に近年は一般への弁当販売が好調で年間販売数は1万食を超えています。



取組 3

安定収益の基盤をつくる 施設管理事業

長門市から里山ステーション俵山と俵山多目的交流広場の指定管理を受けて運営を行っており、これらがNPO法人俵山の大きな収入源になっています。里山ステーション俵山は生涯学習や福祉事業、体験交流事業などの拠点として活用され、地区住民のふれあいの場にもなっています。また、俵山多目的交流広場は、2019年のラグビーワールドカップの際にはカナダ代表チームのキャンプ地にもなった競技場で多くの人に利用されています。



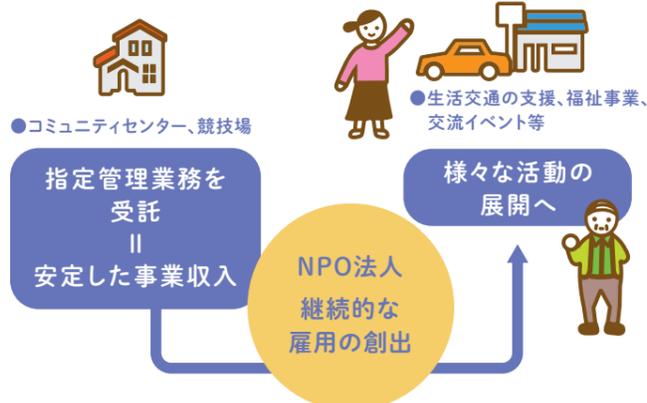
取組 4

要支援認定の 高齢者をケア 地域版デイサービス

NPO法人俵山では、長門市の介護保険事業を受託し、里山ステーション俵山において地域版デイサービスを週1回開所しています。要支援認定を受けた地域の高齢者を対象に、閉じこもり予防などを目的として定期的な健康チェックや体操などを実施。住民ニーズに応えた取組を行っています。

Point 指定管理の受託を中心に事業収入を安定させ、 生活交通、地域福祉、地域活性化の事業も展開

NPO法人俵山の事業収入は年間約4,000万円。このうち、里山ステーション俵山と俵山多目的交流広場の指定管理業務の受託収入が約1,500万円と最も大きく、そのほかデイサービス事業やスクールバス運行事業の受託費、農産加工品の販売、教育旅行などグリーンツーリズムの売り上げも重要な収入源となっています。安定した収入源である指定管理業務を受託することで、継続的にスタッフを雇用することができ、生活交通の支援、福祉事業、交流イベント、スポーツ大会など地域を元気にする様々な活動の展開につながっています。



Report 地区で行う様々な取組

地域資源を活かした交流事業で、 地域に活力を生み出す！

グリーンツーリズムの基盤を整備

俵山地区は豊かな自然に囲まれており、この地区にある俵山温泉は室町時代開湯とも伝えられる歴史ある湯治場です。しかし、観光客は年々減少の一途を辿り、危機感が募るなか、地区では温泉や自然資源を活用してグリーンツーリズムを発展させ、都市圏の人たちとの交流拡大を図る動きが始まりました。平成16年度に俵山地区グリーンツーリズム推進協議会を設立し、山口県からグリーンツーリズムモデル地域の指定を受けて取組を開始。平成20年度からは農林水産省の子ども農山漁村交流プロジェクトのモデル地域の指定を受け、グリーンツーリズムや交流事業の受け入れ基盤を整備しています。



農泊、農村体験の推進

現在では農泊の体制なども整え、中学・高校の教育旅行などの受け入れを積極的に行っています。多いときには年間4校、400名程度の教育旅行を受け入れたことも。また、徳山大学(山口県)が主催する「リーダーシップ研修」の一環として、韓国や台湾などの外国人学生の受け入れも行っています。このほか廃業された旅館を長門市と共同で借り受け、移住希望者を対象としたお試し居住施設「お試し暮らしの宿ゆうゆう」を運営して、定住促進活動にも取り組んだり、住民が主体となってそば打ち体験やピザづくり体験などを実施したり、年間を通じて様々な交流が図られています。



地元食材を使った農産加工 (地産地消事業)

地元の野菜や米を使い、パンやピザをつくり、地区内の産直店やイベントで販売しているほか、毎月1回、朝市も開催しています。また、地元の特産品である恵方(えほう)巻の生産販売、俵山の産品を詰め合わせた「ふるさと宅配便」の企画販売、さらには、小学校の給食室を市から借り受けて県外の事業者を招いてゆずの加工も行っています。これらの取組は活動を支えている地元の女性たちの生きがいとなり、収益をあげる事業としても定着しています。

